



ZIPC TERAS

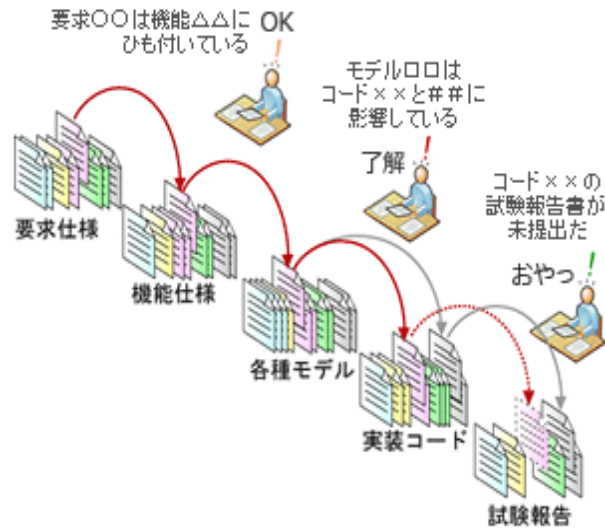
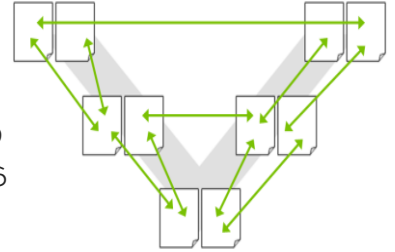
トレーサビリティツールプラットフォーム

既存の資産／環境を変えずに成果物間のトレーサビリティを確保

トレーサビリティとは

トレーサビリティ（追跡可能性）とは、「複数の情報を相互に関連付けて追跡可能にする仕組み」です。ソフトウェア開発のトレーサビリティとは、「ソフトウェア開発の成果物である文書間において追跡が可能である」ことを指します。

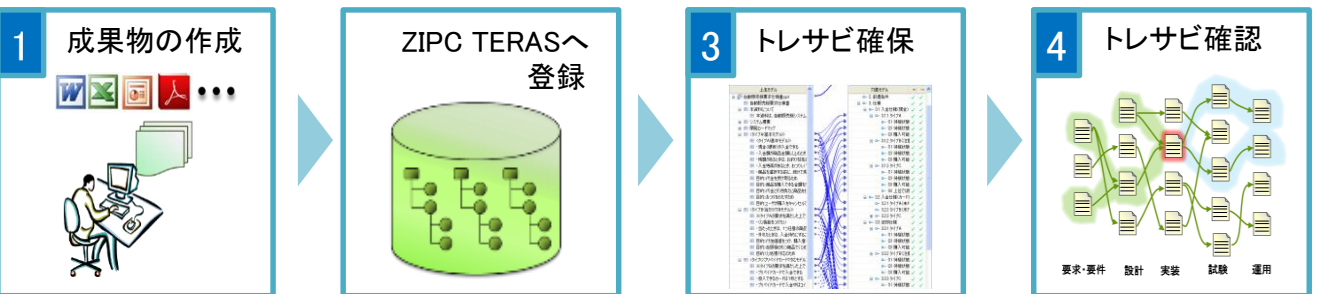
もう少し具体的には、「要求定義書、仕様書、設計書、ソースコードなどソフトウェア開発の各プロセスで作成されるさまざまな成果物（文書）間で関連する情報を紐付け、情報から情報へとその関連を相互に追跡できる仕組み」がトレーサビリティです。



期待される効果

- 「担当者でないとわからない」ことがなくなる
- 要件がすべて設計、実装、試験されているかを検証できる
- 成果物をレビューする際に上流の要件を簡単に確認できる
- 変更に対する影響範囲を論理的に把握できる
- 不具合の影響範囲が明確になり、ヌケモレなく対応できる

作業の流れ



Office等の普段利用しているツールで作成された成果物(既存資産)を登録することができます。

作成された成果物をZIPC TERASに登録します。ローカルにある文書や構成管理(Subversion/Git)で管理された文書も登録できます。

文書内にIDが記述されている場合には、ツールが自動でトレースを作成します。文書内にIDがない場合には、手動でトレースを作成します。

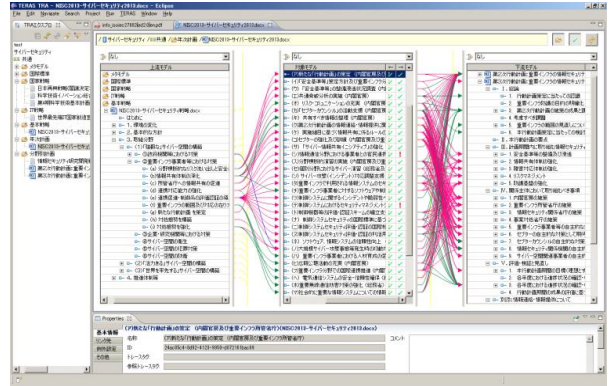
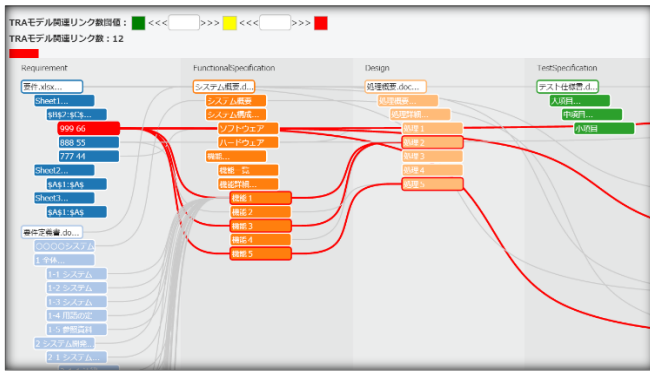
トレーサビリティの情報を利用して、影響範囲検索やカバレッジの確認ができます。



ZIPC TERAS の機能紹介

～既存環境にトレーサビリティを導入～

異なる成果物間のトレーサビリティを管理



Microsoft WordやExcel, Power Point, PDFなどの文書を項目毎に取り込むことが可能

- Enterprise Architect・・・ダイアグラムと要素
- MATLAB/Simulink・・・System, Block, Line
- Microsoft Word・・・章立て
- テキストファイル・・・正規表現による抽出項目指定

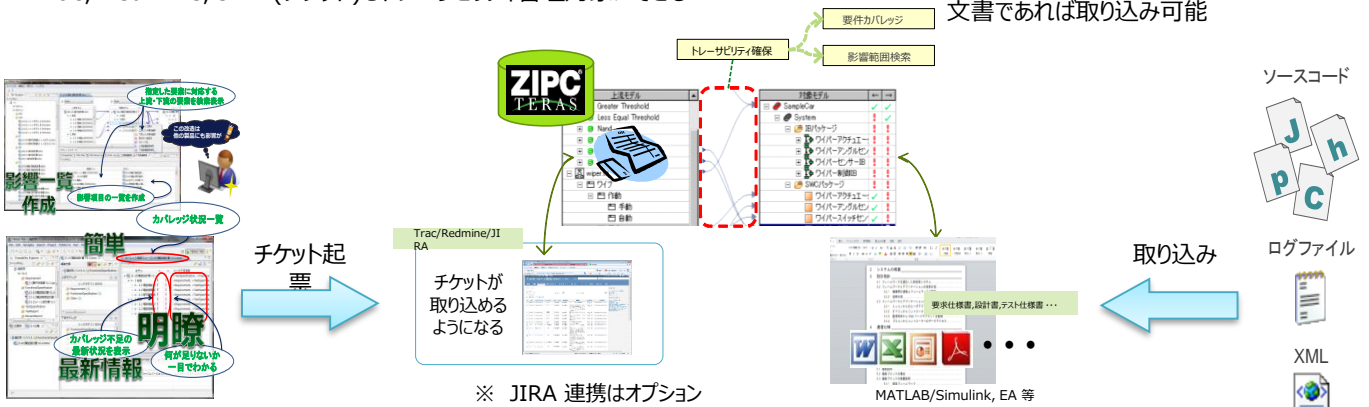
Trac, Redmine, JIRA連携

※ JIRA連携でリックソフト社と協業を予定

- 影響範囲分析やカバレッジ確認結果を基に ZIPC TERAS からTrac, Redmine, JIRA に対して チケット起票を支援する
- Trac, Redmine, JIRA(チケット)もトレーサビリティ管理対象にできる

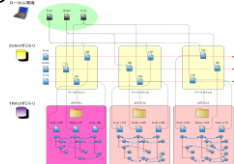
テキストベース連携

- テキスト文書を正規表現で解析し、項目を抽出する
- ソースコードやログファイル、XML等のテキストベースの文書であれば取り込み可能

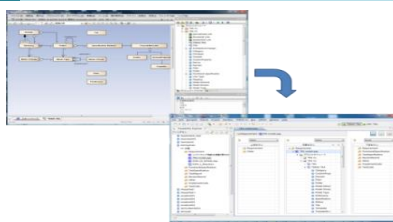


Subversion, Git 連携

ローカル環境のファイルだけではなく、SVN/Git のリポジトリ上のファイルでトレーサビリティ管理も可能



EA連携/Visio連携



※ Visio 連携はオプション

タグベースリンク (自動)

リンク対象文書にあらかじめ記載された“トレーサタグ”を解析し、対応する項目間を自動でリンクする機能

